



日本歯科色彩学会
<https://www.jacd-dc.jp>

日本歯科色彩学会 ニュースレター

No. 71

日本歯科色彩学会事務局
 日本歯科大学 新潟生命歯学部 歯科保存学第2講座 内
 〒951-8580 新潟市中央区浜浦町1-8 発行日/2023年10月10日
 発行人/新海航一 TEL/025-211-8173 MAIL/jacd@ngt.ndu.ac.jp

会員のメールアドレスを学会事務局宛へお知らせ下さい

第30回日本歯科色彩学会総会・学術大会を終えて 大会長 二階堂 徹 準備委員長 日下部 修介 (朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科保存学分野歯冠修復学)

第30回日本歯科色彩学会総会・学術大会は2023年7月8日(土)・9日(日)に岐阜じゅうろくプラザで開催されました。COVID-19の影響により、対面形式での開催は2019年以来と久々の開催となりました。

学術大会の9日は、午前の部は、特別講演1として学会長の新海航一先生(日本歯科大学新潟生命歯学部教授)に「コンポジットレジン修復のシェードマッチング」についてお話いただきました。特別講演2(兼公開講座)では、カラープランナーの武田里美先生(日本流行色協会:JAFCA)を講師としてお招きして、「時代を映し出すカラートレンド」についてお話いただきました。午後の部では、講習会1として「色彩学的な立場からオールセラミックス修復を考える」について貞光謙一郎先生(奈良市開業)に、講習会2として「コンポジットレジンの積層による色調再現性」について池田正臣先生(東京医科歯科大学教授)にお話いただきました。

また、ポスター発表も5演題申し込みをいただき、参加者の活発な討論が行われました。

予想通り、講演・発表と、いずれも興味深い内容であり、大会のメインテーマである「色彩感覚を磨く」にもありますように、日常の生活そして臨床と色と

関わる人が多い中で、あらゆる視点から色彩感覚について学ぶ良い機会になったのではないかと思います。歯科においては、時代の流れと共に、コンポジットレジン、セラミックス、CAD/CAMシステムとどんどん進化していく中で、審美性、色彩については避けて通れないことが多々あります。どの先生方も基礎的研究のデータ、多くの臨床例を元にご講演をいただき心より御礼申し上げます。

また大会前日8日には懇親会も行われました。演者の武田先生や貞光先生にもご参加いただき、また岐阜の料理とお酒を堪能しつつ大いに盛り上がりました。

本学術大会には、会員38名・非会員30名・学生5名・研修医4名、公開講座には28名と100名以上の多くの方にご参加いただき、少しでも色について興味を持っていただけたのではないかと思います。学会開催にあたっては、日本歯科色彩学会学会長の新海先生、事務局の鈴木雅也先生をはじめとする、会員の皆様方に大変お世話になり、無事大会を終えることができました。心より感謝申し上げます。

今回8年ぶりに岐阜の地で日本歯科色彩学会が開催できたことを本当に嬉しく思います。来年は木暮

ミカ先生を大会長として新潟・白山神社での開催が ことを楽しみにしております。
予定されています。会員の皆様とまたお会いできる



学術大会での一コマ

表彰委員会報告

表彰委員会 委員長 平山 聡司
(日本大学松戸歯学部 保存修復学講座)

日本歯科色彩学会では、優れた学術領域における業績に対して学会賞として表彰すると共に特に若手歯科色彩研究者育成のために奨励賞を設けています。表彰委員会では、本学会の機関紙「歯科の色彩」第29巻 第1号に掲載された原著論文3編と第29回日本歯科色彩学会学術大会におけるポスター発表5演題について学会賞、奨励賞の選考をいたしました。

なお、論文奨励賞の対象は、論文受理時に筆頭著者の年齢が37歳未満であることが条件となっています。一方で学術大会における発表奨励賞の対象は、筆頭演者の年齢が30歳未満であることが条件です。

今回の選考結果を以下の通り報告いたします。

<原著論文表彰選考>

【学会賞】

論文名：各種ユニバーサルシェードタイプコンポジットレジンの透過光強度分布

著者：堀田正人、古澤なつき、間下文菜、石榑大嗣、小川雅之、大森俊和

【奨励賞】

論文名：市販美白歯磨剤を併用したブラッシングによるステイン除去効果とエナメル質表面性状への影響

著者：松岡萌依、宮崎晶子、鈴木雅也、新海航一

<ポスター発表表彰選考>

【学会賞】

演題名：人工的に着色したウシ歯根に対するユニバーサルシェードコンポジットレジンの色調適合性

発表者：宮野侑子、鈴木雅也、新海航一

【奨励賞】

演題名：色調適合性を有するシングルシェードコンポジットレジンの浸漬試験

発表者：塚原 弾、谷本安浩、藤田（中島）光、
平山聡司

今年は、原著論文表彰とポスター発表表彰共に奨励賞を選出することができました。日本歯科色彩学

会において若手研究者が論文投稿やポスター発表にノミネートして下さることをとても嬉しく思っています。来年も多く論文投稿と学術大会での発表をお待ち申し上げます。



“特 集” ～私の研究室紹介～



大学や研究所などにご所属の会員の先生方から所属先の紹介記事をお寄せいただくことで、会員同士の交流や共同研究のきっかけになればと考えて、“特集”「私の研究室紹介」を企画しております。お忙し

い中、第3回の原稿をご執筆いただいた平山聡司先生に心より感謝申し上げます。

(ニューズレター編集委員長 金子 潤)

日本大学松戸歯学部 保存修復学講座

平山 聡司

現在の保存修復学講座は、1971年日本大学松戸歯学部開設時（当時は日本大学松戸歯科大学）、浅野武男教授が主任となり「保存学教室（I）保存修復学」としてスタートした。その後、寺門正巳教授そして並木勇次教授へとバトンが渡されてきたが、読者の皆様にとって、1994年に就任した池見宅司教授が最も記憶に残る存在であろう。池見教授は褐色鶏卵を使用した歯科漂白剤の効果検証モデルの構築や特にオペク材の色彩研究に尽力し、多くの大学院生がこれらをテーマに指導を受け、当講座における歯科色彩研究が大きく発展した。歯科色彩学会の会長も務めた池見教授と共に2004年と2012年に日本歯科色彩学会を主催したことも懐かしい。さらに池見教授退任後は、2014年に私が教授に就任し、2017年には日本歯科色彩学会を主催するなど微力ながら貢献してきた。

教育では、MI dentistry が主流である修復治療において、正しい修復材料の理解と接着歯学を体現できる歯科医師を育成するため、3年次前期ではメタル

インレー修復、後期ではコンポジットレジン修復やコンポジットレジンインレー修復を主とした講義・基礎実習を行っている。来年度からは、新校舎棟が完成し、新しい基礎実習室でデジタルデンティストリーを取り入れた実習を模索している。臨床実習では、歯科医師国家試験合格に向けた知識と技能が身につくよう実習終了後の口頭試問やオフィスタイトに医局員が一丸となって取り組んでいる。更に生涯研修コースとしてコンポジットレジンハンズインセミナー ベーシックコースとアドバンスコースを毎年2回開催し、同窓を始めとした歯科医師に対して広く知識・技術の伝達に努めている。

研究では、ワンステップボンディング材の歯質脱灰能と接着機構の解明、充填材料の重合挙動や重合収縮応力に関する研究、修復材料の摩耗・劣化による色調変化などコンポジットレジンに関する研究やリン酸カルシウムセメントによる再石灰化能を付与した根管充填用シーラーの開発や根面齲蝕の進行抑制を目的とした再石灰化溶液の開発を行っている。

現在は、常勤として教授・准教授、専任講師 6 名、
専修医 2 名および大学院生 3 名の体制であるが、兼

任講師 29 名、非常勤研究生 27 名の強力な支援を受
けながら和気藹々と教育、研究に奔走している。



学会事務局よりお知らせ

幹事 鈴木 雅也

(日本歯科大学新潟生命歯学部 歯科保存学第2講座)

日頃より本会の運営にご理解をいただきありがとうございます。7月に岐阜市にて第30回総会・学術大会(二階堂大会長)が成功裏に開催されました。実に4年ぶりの現地開催となりましたが、これまでを振り返りますと2020年は中止、2021年はウェブ開催(金子大会長)、2022年はオンデマンド開催(新海大会長)と様々な手法で続けてまいりました。今後は現地開催が主体になると思いますので、会員の皆様におかれましては、学術大会、見学会に是非ご参加い

ただければと存じます。

新規の入会は随時受け付けております。お知り合いの方に本会をご紹介いただけますと幸いです。入会申込書はホームページからダウンロードできますのでご利用下さい。住所やメールアドレスの変更に關しましては学会メールアドレス(jacd@ngt.ndu.ac.jp)にご連絡ください。また、何かご不明な点がございましたら、ご遠慮なくお問い合わせ下さい。

【編集後記】

7月8日(土)・9日(日)に岐阜市の「岐阜じゅうろくプラザ」で第30回の総会・学術大会が二階堂徹大会長のもと4年ぶりに対面で開催されました。過去2年間はオンラインを活用した開催でしたが、久しぶりに現地に足を運んでその土地の良さを味わえたのはやはり格別でした。もちろんオンラインでの開催も様々な利点があることは明らかになってい

ます。職場や自宅にいながら学会発表や講演を視聴することができたり、開催地までの旅費や滞在費が節約できるなど恩恵も多かったことは事実です。しかし、今回の学会では実際に対面で会員の先生方と語り合えたことに大きな喜びを感じました。土曜日の理事会や懇親会、日曜日の学会会場でのディスカッションなどは、現地開催の学会ならではの雰囲気

が甦り、岐阜に足を運んでよかったと思っています。 大会になるか、今から楽しみです。

さて、2024年度は木暮ミカ大会長のもと新潟市での開催が予定されています。来年はどのような学術

(金子 潤)

日本歯科色彩学会ニューズレター編集委員会 金子 潤、新海 航一、中山 友克、小澤 有美